

[成果情報名] アスパラガスの2次分枝の早期除去による増収

[要約] アスパラガス半促成長期どり栽培における親茎の2次分枝の除去は、6月末までに完了した方が単価の高いL級以上の収量と割合が増加する。

[キーワード] アスパラガス、2次分枝、除去、L級

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・野菜科

[連絡先] 電話 0957-26-3330, 電子メール k-inoue@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

アスパラガスの半促成長期どり栽培では、夏秋期の管理として採光および通気不良による高温障害や病害虫発生を防止するために2次分枝を除去するが、収量への影響については不明である。またアスパラガスの単価はL級以上が最も高く、次いでM級（L級の290円安）、S級（L級の520円安）であり、生産者は太もの志向が強い（参考）。そこで2次分枝の除去期間が収量、規格に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 夏秋芽の上物収量はいずれも同程度であるが、7月以降に2次分枝を除去するとL級以上の収量と割合が減少する（表1）。
2. 春芽は8月以降に除去すると上物収量だけでなく、L級以上の収量と割合も減少する（表2）。
3. L級以上の収量と割合は6月末までに2次分枝を除去した方が年間を通じて最も良い（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 適用範囲はアスパラガスの半促成長期どり栽培地域。
2. 高温期に通気不良や病害発生が心配される圃場では、7月以降も2次分枝を間引く。

[具体的データ]

表1 2次分枝除去と夏秋芽のL級以上の収量と割合

除去期間	L級以上		
	上物単収	kg/a	重量%
6月末まで	169	103	61%
7月末まで	163	81	50%
8月末まで	176	86	49%

注) 安山岩質細粒黄色土, 調査期間は2002年5月~10月
親茎は4月20日に120cmで摘心し50cm以下の側枝は除去一斉立茎

表2 2次分枝除去と翌年春芽のL級以上の収量と割合

除去期間	L級以上		
	上物単収	kg/a	重量%
6月末まで	117	88	75%
7月末まで	125	83	66%
8月末まで	106	67	63%

注) 調査期間は2003年2~4月

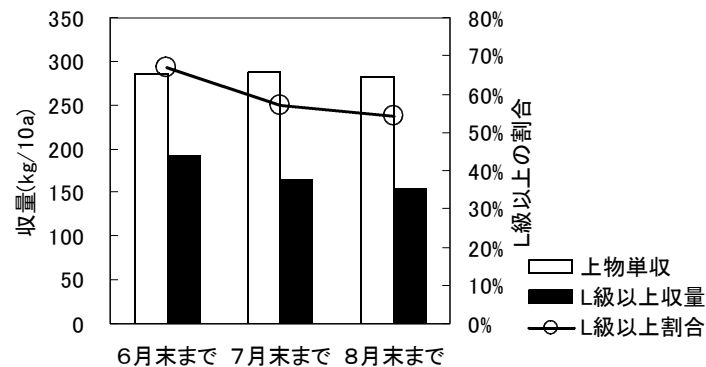
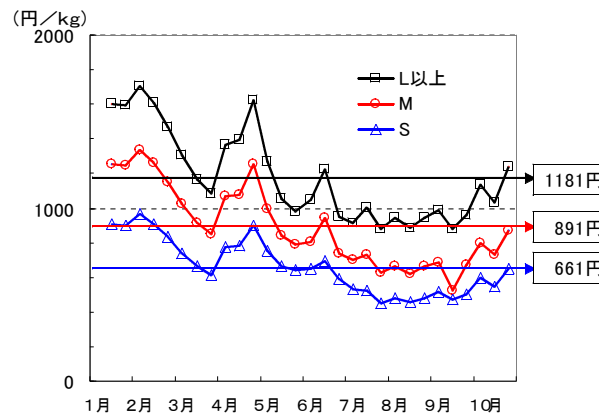


図1 2次分枝の除去期間とL級以上の収量・割合



参考 長崎県産アスパラガスの規格別単価 (2001年)

[その他]

研究課題名: 施設野菜の次世代型栽培技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2001~2006年度

研究担当者: 井上勝広

発表論文等: 長崎県総合農林試験場 (2004) 平成14年度野菜試験成績書 33.
井上勝広 (2005) 施設と園芸 129.